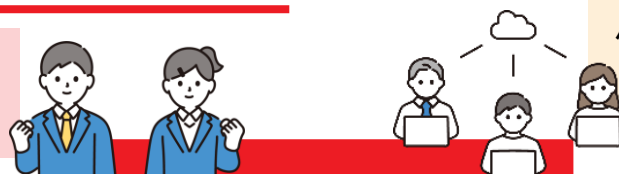


幸手スタンダード授業 5 with GIGA

—子供たちの学びの姿を見取り、確かな力を育成する—

主体的・対話的で深い学びを実現する授業
～ゴールを明確にしてブラッシュアップ～

個別最適な学び・協働的な学びを実現する授業
～ICTの強みを活かして学びの質を高める～



I

『学ぶ準備はできているか』 ⇒ 学ぶ意欲を高める
● 学ぶ気構え・心構えをつくることで、本気で授業に臨むようにする。
(授業に向かう『挨拶』、『姿勢』、『学習の用意』等)

心のスイッチ

学習ログの確認や映像提示で、子供の意欲喚起に活かせる
例) Teams→ファイル→単元を通して1つのデータに全員の振り返りを
入力→導入時に提示
例) 大型提示装置に教師用端末の映像を一齐提示

必要に応じて
すぐ使えるよう、
端末の準備

II

『何を学んでいるのか』 ⇒ 課題や見通しをもたせる
● 『問いを見つける力』を高め、子供が自ら学習課題を設定できるようにする。
● 対話によって協働を生み、思考を深める。
● 子供が自ら、学習課題を追究できるようにする。

問題・課題
を知る

子供一人一人の考えを収集、整理・分析できる
例) オクリンク→カード(ワークシート) 画像・動画・ファイル・WEBリンクを
貼り付けて1枚のワークシートを作成
例) Forms→アンケート集約→全児童生徒の考えを集約・提示

III

『問題・課題をどう解決していくのか』 ⇒ ひとりで・みんなと・先生に
● 多様な形態(一人、ペア、グループ等)で、思考を深める。
● 多様な方法(話し合い、既習事項を活かす等)で、考えを繋ぎ、
紡ぎ、学びの輪を全体に広げられるようにする。

一人で考え、
共に深める

音声・画像・データを繰り返し見(聞き)返せる
例) オクリンク→LIVEモニタリング→子供の状況把握→ヒントカードを個
別に送信
例) ムーブノート→テンプレート→思考ツールを使った課題解決

IV

『何が解り、できるようになったのか』 ⇒ 目標から達成度を押さえる
● 子供が自ら、分かったことをまとめられるようにする。

まとめ

従来よりも広い範囲に対し、時間を問わず提示できる
例) オクリンク→カード→書き込んだカードを提出→全体で画面共有
例) ムーブノート→ひろば→グループ毎にひろばを作成し、グループで自由
にカードを動かしながら意見をまとめる

V

『何を、どのように学んだか』 ⇒ 自分の取組を振り返り、次に生かす
● 子供が自ら、学びを自覚化できるようにする。

振り返り

データを蓄積でき、教師の見取りや評価に活かせる
例) ムーブノート→深い学び→友達のカードをもとに、自己の変容を認知
例) ムーブノート→キーワード集計→振り返りを書かせて、狙ったキーワ
ードを集計し評価

最低5分!

定着・発展

探究学習 ～「みんなで同じことを同じように」からの脱却～

- 自分なりの問い立て、やり方、答えを引き出すようにする。
- 先生や同僚の的確なフィードバックを行うようにする。
- 教師は、「探究」のサポート、ガイド役に徹する。



家庭学習 ～指導の個別化と学習の個性化～

- 授業で学んだことを定着・活用できるようにする。(ドリルパーク)
- 各々の特性・学習到達度に応じた課題を提示する。
- 各々が興味・関心のある内容にも取り組ませる。



“教師の凡事徹底” どの子も前向きに参加する授業の土台

教育のプロフェッショナルとしての気概

- 幸手教師五者の心
(指導者・伴走者・演出者・先導者・経営者)
- VUCA時代でも変化を恐れず、何事にも積極的にチャレンジ
- 自分にしかできない仕事だという自負
- 時流を捉える高いアンテナ
- 常に学び続ける主体性



子供たちが生き生きと学ぶ授業づくりの前提

- 信頼関係に基づく学級づくり(肯定的・共感的な人間関係づくり)
- 学習規律の浸透(話し方、聴き方、学習用具等)
- 本単元・題材・本時を通した「何ができるようになるか」の確認
- 教材・教具の工夫(教師間・異校種間での連携、指導の系統等)
- 既習事項と、その定着状況の把握(全国・県学調、レディネステスト等)



ICT活用の『合言葉』

I いつも
C ちゃんと
T つかおう



ICTをずっと
使う必要はあ
りません。必
要なとき、効
果的なときに
使いましょう。